東白川村道路橋梁維持管理個別施設計画

（橋梁個別一覧表）

東白川村

○平成26年3月に交付された「道路法の一部を改正する法律」及び「道路法施行規則の一部を改正する省令」により2m以上の全ての橋梁に関し、5年ごとにの近接目視による点検が義務付けられています。

○東白川村が管理する橋梁については、橋梁長寿命化計画及び橋梁個別一覧表の点検計画に基づき、定期点検や補修を実施し、状況を反映し、随時見直しを行います。

個別施設計画 【15m以上橋梁】

R02.03.31 現在

橋名	橋長	幅員	仮設年次	路線名	点検計画										判定区分	修繕計画										対策費用
					H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
藤の木橋	54.0	5.0	1984	藤の木線				○				○			Ⅱ											
谷畑橋	17.0	5.0	1985	神土角領線				○				○			Ⅱ											
西洞橋	21.0	5.0	1985	神土角領線			○					○			Ⅰ									○		7,800,000
山下橋	29.0	3.8	1963	日向本線				○				○			Ⅱ											
猪薙橋	22.0	5.0	1987	西洞本線				○					○		Ⅰ											
登尾橋	35.0	5.0	1988	西洞本線				○				○			Ⅱ											
神矢橋	37.0	2.0	1963	下野本線				○				○			Ⅱ											
いこい橋	15.0	4.0	1985	中島線				○				○			Ⅱ								○			8,000,000
横瀬橋	55.0	1.0	1968	横瀬線				○				○			Ⅲ				○							300,000
釜渕橋	16.0	0.7	1969	釜渕線			○					○			Ⅱ											
神矢橋	56.0	4.3	1970	神矢線				○				○			Ⅱ		○									18,500,000
佐広橋	25.0	5.0	1991	平向線				○				○			Ⅱ									設計	○	3,000,000
越原橋	37.0	5.0	1977	笹屋線				○				○			Ⅱ											
本谷橋	19.0	4.0	1991	一木線				○					○		Ⅰ											
小三地橋	28.0	4.0	1992	小三地線				○					○		Ⅱ											
山元橋	25.0	3.0	1976	山元線					○				○		架替中											
立岩橋	40.0	1.0	1959	向山線				○				○			Ⅱ											
栃山橋	30.0	4.0	1975	都加太地線				○					○		Ⅱ											
新魚戸橋	39.0	4.0	1978	魚戸線			○					○			Ⅰ						設計	○	○			60,000,000
南北橋	50.4	4.6	1969	久須見本線					○					○	Ⅰ	○										29,000,000
高橋	40.6	4.0	1961	前山線					○				○		Ⅱ											
大口橋	55.0	3.5	1973	大口南線			○					○			Ⅲ					設計	○					13,000,000
岩倉橋	32.0	4.3	1968	岩倉１号線					○					○	Ⅰ											
杉田屋橋	37.0	1.5	1972	杉田屋線				○				○			Ⅱ											
大明神口橋	22.0	2.4	1977	大明神口線				○					○		Ⅱ									設計	○	8,000,000
丸吉橋	16.0	3.2	1969	丸吉１号線				○					○		Ⅱ									設計	○	4,500,000
ふるさと橋	59.7	6.2	1996	向山線					○					○	Ⅰ											
黒渕線１号橋	18.5	6.2	2000	黒渕線					○					○	Ⅰ											
平成橋	53.5	6.2	1994	平向線					○					○	Ⅱ											
洞山橋	20.0	4.0	1990	同木洞線				○					○		Ⅰ											
ひよどり橋	17.0	4.0	1992	同木洞線				○					○		Ⅰ											
氏神橋	21.6	7.2	1986	氏神槇橋線					○					○	Ⅰ											
銭神橋	15.6	6.2	1984	氏神槇橋線					○					○	Ⅱ									設計	○	10,000,000
新大口橋	52.9	9.3	2008	黒川東白川線					○					○	Ⅰ											
木曽渡橋	30.0	8.2	2007	黒川東白川線					○					○	Ⅰ											
久須見大橋	51.0	8.2	2005	黒川東白川線					○					○	Ⅰ											

※修繕計画については、長寿命化計画に基づき実施するもの及び、法廷点検結果に基づき修繕補修を行うものがあります。

※修繕計画については、各年度での法定点検が完了した時点で、点検結果により見直すことがあります。

区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

個別施設計画 【2m以上15m未満橋梁】

R02.03.31 現在

橋名	橋長	幅員	仮設年次	路線名	点検計画										判定区分	修繕計画										対策費用
					H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
大口南線２号橋	7.0	3.6	1976	大口南線		○					○				Ⅰ											
前山線２号橋	13.0	3.6	1961	前山線					○					○	Ⅱ				○							5,600,000
宮洞橋	12.0	2.5	1980	宮洞線				○					○		Ⅱ											
反の渡橋	11.0	4.5	1951	反の渡線				○					○		Ⅱ											
岩平橋	10.0	4.5	2000	前山線				○					○		Ⅰ											
前山橋	10.0	4.4	2000	前山線				○					○		Ⅰ											
平２号線１号橋	3.0	4.7	1950	平2号線		○				○					Ⅱ											
井の平橋	4.0	4.0	1980	井の平線		○					○				Ⅰ											
神明橋	4.0	4.0	1956	神明線		○					○				Ⅰ											
ナベ橋	3.0	3.7	1955	神土ﾅﾍﾞ線		○				○					Ⅱ				○							7,000,000
鈴原橋	7.0	4.0	1996	鈴原線		○					○				Ⅰ											
ゴウロ橋	7.0	5.0	1989	ｺﾞｳﾛ線		○					○				Ⅰ											
加舎尾線１号橋	13.0	4.8	2004	加舎尾線					○					○	Ⅱ											
新西尾橋	10.0	5.9	2005	神土角領線			○					○			Ⅰ											
東橋	6.0	5.2	1990	大屋敷線		○				○					Ⅱ											
鳥屋下橋	4.0	4.0	1957	西洞本線		○				○					Ⅱ											
曲坂橋	12.0	7.0	1970	神土角領線			○					○			Ⅱ											
境谷橋	6.0	4.0	1986	倉屋1号線		○				○					Ⅱ											
杉本１号橋	10.0	6.0	2000	杉本線				○					○		Ⅰ											
神土角領線３号橋	5.0	4.0	1971	神土角領線		○				○					Ⅱ											
日向本線１号橋	5.0	5.0	1990	日向本線		○					○				Ⅰ											
杉本橋	4.0	3.0	1979	杉本線					○					○	Ⅰ			○								4,500,000
紅葉橋	4.0	4.0	1993	日向本線					○					○	Ⅰ											
神土角領線４号橋	3.0	4.0	1969	神土角領線		○					○				Ⅰ											
境橋	2.0	4.5	1954	中根線		○				○					Ⅱ											
林屋橋	7.0	3.0	1993	林屋線		○					○				Ⅰ											
柾板橋	8.0	3.0	1985	山田屋線		○					○				Ⅰ											
穴沢本線１号橋	4.0	6.1	1970	穴沢本線		○				○					Ⅱ											
富田橋	4.0	4.0	1979	富田線		○					○				Ⅰ											
中山橋	13.0	4.0	1984	丸屋１号線			○					○			Ⅰ											
小峠橋	11.0	3.6	1962	小峠線				○					○		Ⅱ											
新巣橋	5.0	3.6	1977	新巣線					○					○	Ⅰ			○								7,600,000
新田橋	5.0	3.0	1985	新田線		○				○					Ⅱ											
槇橋	3.0	3.0	1985	槇橋線		○					○				Ⅰ											
柏本橋	11.0	4.5	1987	大沢柏本線				○					○		Ⅱ						設計			○		20,000,000
井の樋橋	8.0	4.0	1988	柏本本線		○					○				Ⅰ											
竹の腰線１号橋	6.0	3.9	1957	竹の腰線				○					○		Ⅲ					○						6,800,000
ホウガホラ橋	3.0	3.8	1954	大沢柏本線				○					○		Ⅲ					○						2,200,000
上五加橋	2.0	3.7	1954	大沢柏本線				○					○		Ⅲ					○						2,000,000
柏本宮代１号橋	12.0	4.0	1994	柏本宮代線					○					○	Ⅰ											
カラスゲ橋	4.0	4.3	1954	大沢柏本線			○					○			Ⅱ											
合田橋	4.0	3.2	1967	宮代本線		○					○				Ⅰ											
大沢本線１号橋	7.0	3.5	1969	大沢本線					○					○	Ⅱ				○							6,000,000
井の淵橋	5.0	3.7	1980	井の淵線		○					○				Ⅰ											
大沢本線２号橋	5.0	3.6	1971	大沢本線		○				○					Ⅱ											
清水橋	4.0	3.0	1980	清水線		○					○				Ⅰ											
下野南線１号橋	6.0	6.1	1990	下野南線		○				○					Ⅱ											
下野東線１号橋	4.0	4.4	1968	下野東線		○				○					Ⅱ											
平１号線１号橋	2.0	3.0	1989	平1号線		○					○				Ⅰ											
一木線３号橋	5.0	4.8	2014	一木線		○					○				Ⅰ											
一木北橋	2.0	4.1	1986	一木北線		○					○				Ⅰ											
同木林線１号橋	4.0	3.1	不明	同木林線		○					○				Ⅰ											
長畑橋	8.0	2.5	1973	長畑線				○					○		Ⅱ											
垂洞東線１号橋	4.0	2.5	1970	垂洞東線		○					○				Ⅰ											
垂洞東線２号橋	4.0	2.5	1971	垂洞東線		○				○					Ⅱ											
小峠２号橋	4.0	3.8	1970	小峠線		○				○					Ⅰ				○							1,000,000
くらがり橋	6.0	2.5	1984	くらがり線		○					○				Ⅰ											
垂洞橋	8.0	5.0	1984	氏神槇橋線		○				○					Ⅱ											
久須見本線２号橋	8.0	3.1	1968	久須見本線		○				○					Ⅱ											
久須見本線３号橋	6.0	3.5	1968	久須見本線		○				○					Ⅰ											
久須見本線４号橋	5.0	3.1	1971	久須見本線		○				○					Ⅱ				○							1,500,000
久須見本線５号橋	5.0	3.1	1960	久須見本線		○				○					Ⅱ											
大洞橋	6.0	3.1	1960	久須見本線					○					○	Ⅱ											
門洞橋	5.0	7.0	2005	黒川東白川線					○					○	Ⅰ											
前山平線１号橋	5.0	3.0	1962	前山平線					○					○	Ⅰ											

※修繕計画については、長寿命化計画に基づき実施するもの及び、法廷点検結果に基づき修繕補修を行うものがあります。

※修繕計画については、各年度での法定点検が完了した時点で、点検結果により見直すことがあります。

区分		状態
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態